北海道真駒内養護学校

平成２８年度第３回学校評議員会だより

平成２９年３月１３日
北海道真駒内養護学校

第３回目の学校評議員会では、３名の学校評議員の出席のもと、今年度実施した学校評価について関係者評価を行い、次年度の学校経営にかかわる意見をいただきました。

日　時：平成 29 年３月２日（金）１３：３０～１５：００
出席者：学校評議員　菊地　ひとみ　様（札幌肢体不自由福祉会施設長）
　　堀内　紀久美　様（ＮＰＯ法人ＭＩＮＮＡの会理事長）
　　戸倉　　聡　様（日の出歯科真駒内診療所　副会長）
学　　校　宮崎校長、佐橋副校長、野中教頭、英事務長
　　部主事（渡辺晃、安達）
内　容：〇学校評価の説明及び評議　　〇感想（今年度の振り返り）



◎　校長あいさつ

今年度の学校経営の振り返りを交え、校長よりあいさつがありました。

- 今年度の重点目標を「協働する組織の基盤を創る（チーム真駒内を創る）」とした。
- 井戸端ミーティング、職員会議の削減など、教職員をつなげる機会を増やした。
- 教職員をつなげる人として部主事を中心にミーティングを行い、縦や横の連携がスムーズになってきた。
- 今年度の学校評価は、分析や改善について組織的に対応した。協働する一つの現れと捉えている。
- 協働するためには、システムだけでなく、一人一人の力量を高める必要がある。来年度は職責を意識して、実践的に取り組む予定である。

◎　学校評価の説明及び評議

副校長より今年度の学校評価について説明をし、今年度の経営の重点（３点）ごとに課題解決の方向性について評議員よりご意見をいただきました。

１）教職員が一丸となるために



【課題解決の方向性（案）】
・担任等が児童生徒の指導・授業にしっかり向き合える環境を整える。
・初任者研修の在り方を見直し、若手教職員の育成を図る。
・会議等の効率化を進め、子どもや授業の話ができる時間を確保する。
・小中高の系統性を図るため、異なる学部間の授業や指導場面の交流を行う。
・教職員の協働性を図るため、自由に学校課題を話し合う場を設定する。

【評議員の意見等】
- 先生方の忙しさを感じている。学校と同様に、本事業所においても話し合う時間がもてない状況である。午前は通所、午後は研修としたいが、利用者のことを考えると悩んでいる。
- 課題解決の方向性はよいと思うが、現在の多忙の中で、授業や子どもに向きあう時間の確保ができるか疑問がある。
- 井戸端ミーティング※など大変よい取組と思う。参加者がより多くなり、先生方の交流が生まれるとよい。

※教職員の興味・関心に基づいた小グループの活動。今年度２回実施。

２）保護者が安心するために

【課題解決の方向性（案）】
・個別の教育支援計画の活用を充実させることにより、教育のねらいがより明確になるため、教職員の理解を深め、有効なツールとして活用する。
・各部の特色を活かしながら、個のニーズに応えた教育を実践すべく、授業づくりや公開授業、外部の講師を招いての研修等を実施し、指導力の向上を図る。
・摂食については、専門的知識に立った助言を受けることにより、より安全な取組を行う。異物混入等の事故については、厨房内の動線の確認等を行い、管理の徹底を図る。
・校内の事故等に関しては、「事故調査チーム（仮）」をケースごとに組織し、再発防止策を学校全体で考える。
・小学部から高等部まで、幅広い年代の児童生徒が在籍していること意識し、人権と人格を尊重したかかわり方や、社会へ巣立った後も通用するかかわり方に留意する。

【評議員の意見等】
- 給食の異物混入の事故が多い。調査チームつくりや教職員意識の高揚など未然防止策が必要である。
- 人権尊重について生活年齢にあった適切な児童生徒との関わりが必要である。例えば高校生を「ちゃん付けで呼ぶ」「ニックネームで呼ぶ」などは望ましくない。

３）地域・関係者から頼りにされるために

【課題解決の方向性（案）】
・ホームページや射雲の記事の内容を充実する。取組の報告だけでなく、児童生徒にどのような効果があったのか、地域に対して何を発信した（したい）のかなどを伝える。
・将来の社会生活、地域生活を見据え、体験的で実践的な学習に取り組む。また、従来の活動（学習）の意味を見つめ直し、各年代に応じてキャリア教育の視点で検討する。
・本校の児童生徒ができる形での社会貢献活動に取り組み、地域の皆さんから感謝される取組を検討する。また、寄宿舎における地域活動の在り方について検討する。

【評議員の意見等】
・地域への貢献について、特別支援学校に求められていることは変化している。地域の学校等とどのように関わっていくべきか、そのビジョンを明確に示すことで、教職員の役割が自覚できるのではないか。
・肢体不自由の専門性は、発達障がいなどの他の障がいのある子どもたちにも対応できると思っている。地域の学校にもっと貢献してほしい。

４）全体に係わって

【評議員の意見等】
・各部等の注目してほしい取組に対し、評価できない人が多かったのはなぜか。注目してほしい取組に、具体性が乏しく評価ができなかったのか、具体的だったのに評価をしなかったのかなど分析が必要である。

【校長】　次年度は、校長からのミッションとして、各部等に重点や役割を提示した方がよいと考えている。



・設問が具体的でない項目があり、「？（評価できない）」の多さが表れているのではないか。
平易な言葉を使い、例示を入れるなど具体的な設問にしていくとよい。

【校長】　今年度は、設問を各部等から作り出し意識して取り組んでいったが、設問が改善策につながらないものが見られた。次年度は何を改善したいのかを明確にした上で設問を設定する。

・教職員については、アンケートの項目ごとに記述欄を設けて、ポイントを付けた意味を記入するとよいのではないか。「？」の意図が分かるかもしれない。

◎　感想（今年度の振り返り）

【堀内評議員】
・学校評価の仕方が分かりやすくなり、安心して評議員会に参加することができた。
・昨年度の学校評価の時に、地域に出た活動をしてほしいとコメントをしていた。町内の盆踊りの参加や近所のスーパーで交流会の実施、職場体験実習など、今年度はうれしい活動報告が多く、学校評議員としての役割が果たせて私自身としてもよかった。

【菊地評議員】
・今までは、進路担当の先生とのつながりがほとんどであったが、学校評議員として出席することで、学校において、意思を伝えることの大切さや生きる力をつけていくことの必要性が分かる機会となった。

【戸倉評議員】
・学校の課題は、医療でも同じ課題がある。参考になる取組がいくつかあった。学校評議員会の出席は楽しみであった。
・評価に関しては、評議員として何をするべきかが理解できたのはよかった。

